

【平成30年度花巻市地域自治に関する懇談会開催報告書（概要版）】

●花巻市地域自治に関する懇談会設置の目的

人口減少、少子高齢化が進む現在、地域の課題が多様化・複雑化してきております。そこで、持続可能な地域自治を推進するため、地域自治を担う組織やその制度のあり方について他事例を学びながら、現状・課題を把握し、今後の地域自治のあり方について意見交換を行うことを目的に設置しました。

●第1回懇談会 平成30年10月9日（火）

【内容】「いま、改めて地域づくりを考える」～この12年で私たちはどこまで来たのか～

地域自治に関わる全国的な課題

①役員負担の過重⇒担い手の不足 ②地域のことは地域で⇒行政との分断 ③交付金の一本化⇒権力の集中

新しい発想・動きが出てこない

市の全体をみる視点が出てこない

●地域自治の仕組み「2つのソウイ」とは

地域自治

- * 全員に関わる
- * 住民と住民の支え合い
- * だから全員でやる
- * 合意・納得が大事（時間がかかる）



地域づくり

- * この指とまれ
- * 気づいた人からする
- * オリジナリティが大事（スピード重視）



総意

人口減少と過疎化が進む中、①「地域は何をどこまで」すべきなのか ②コミュニティに私たちは何を求めるのか

創意

懇談会資料（花巻市コミュニティアドバイザー役重真喜子氏資料より引用）

【懇談から】

* 「総意型」の立場から

- ・ 役員の疲弊、マンネリ化
- ・ 若い世代が参加しない
- ・ ふれあい、交流をメインにやっている

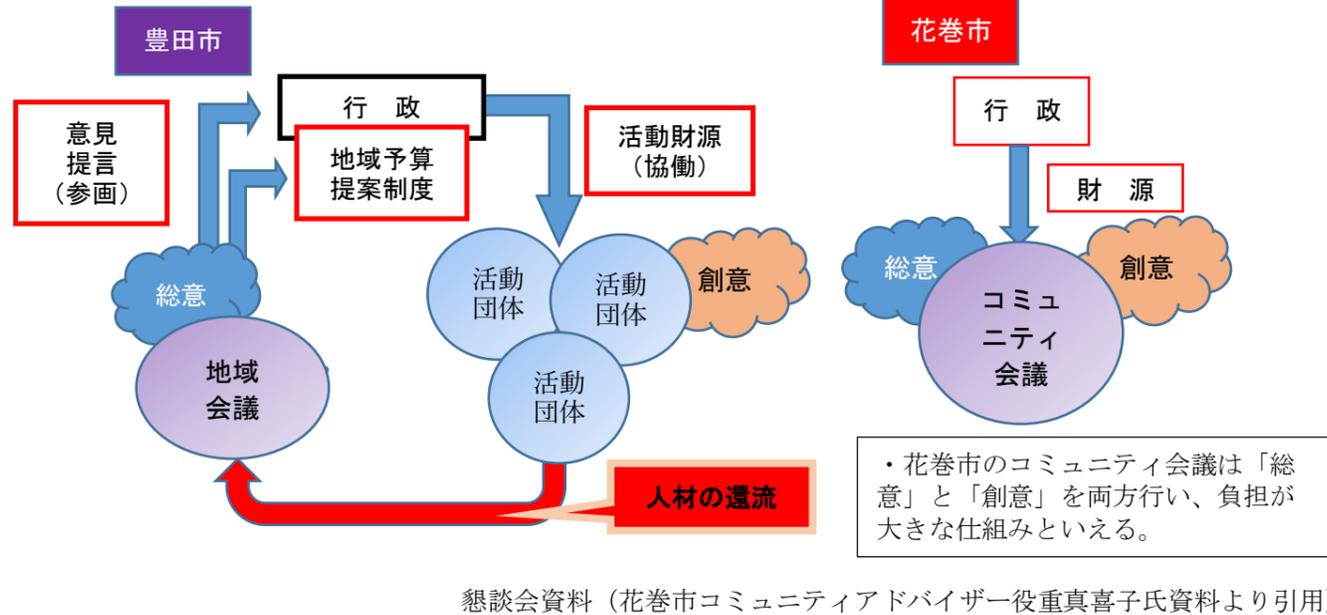
* 「創意型」の立場から

- ・ 地域組織には女性やヨソモノが入りにくい。
- ・ 「コミュニティ地区」限定せず広域で活動したい
- ・ 「これをやりたい」明確なテーマがある

●第2回懇談会 平成30年11月13日（火）

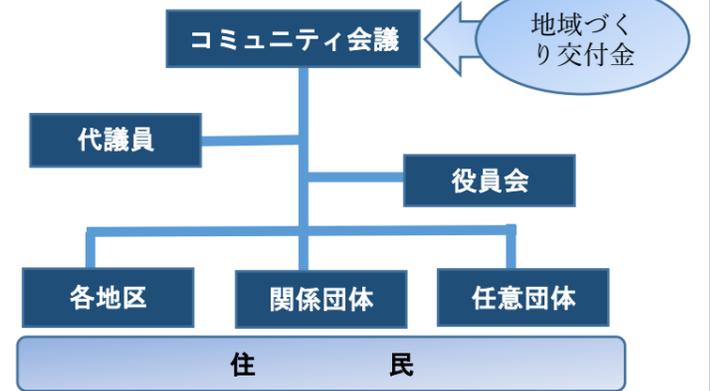
【内容】「いま、改めて地域づくりを考える」～見えた課題にどう対応していくのか～

●豊田市の事例との比較



◎コミュニティ会議は「総意型」組織

- ・ 世帯主中心・役に役が重なる・地域代表性



●見直しの方向：「抱えすぎ」からの解放

①創意型活動を生み出す

【疑問】活動が本当に生まれるか？

- ・ 広域の活動も可とするか？
- ・ コミュニティ会議との連携はどう図るか？

②「大きな公共」の仕事を楽しむ

【疑問】・これまでの実態、ハード事業の実施格差をどう考えるか？ ・地域の要望の反映はどうするか？

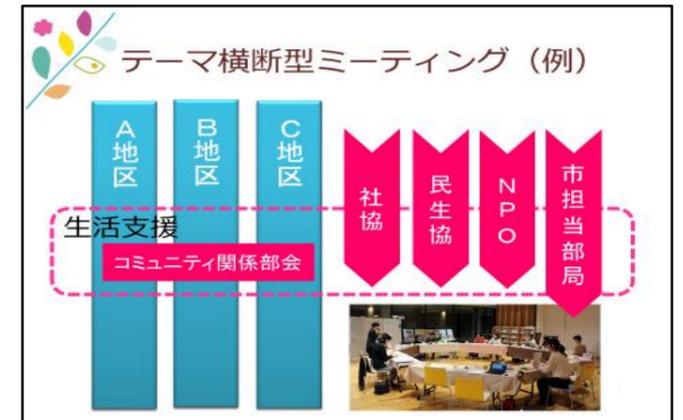
③コミュニティの役割を明確にする（総意：顔の見える、助け合える関係づくり＝集落や町内会等の機能の補完）

1. 地域にしかできないことをしっかり
 2. 自治会単位ではやれない広域の役割
- * 福祉・防災・自治会町内会支援・・・

◎行政がやるべきこと・・・

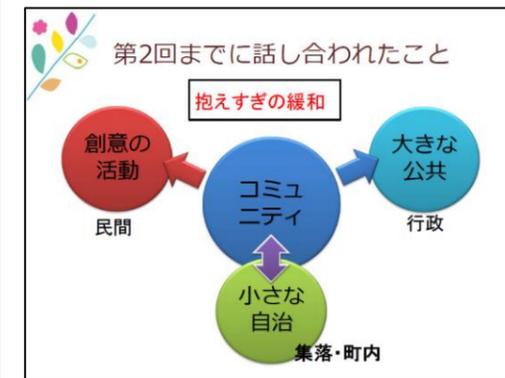
地域との連携ルートの強化・明確化

（右図：島根県雲南市地域円卓会議）



●第3回懇談会 平成31年1月15日（火）

【内容】「地域自治のしくみ見直しの方向について」～30年度のふり返りとまとめ～



見直しの方向について

1. コミュニティをもっと手軽に
 - ・ 組織や役、運営の合理化
 - ・ インフラ関係は行政の役割へ
2. 創意の活動をはぐくむ
 - ・ 情報共有とマッチング
 - ・ 「小さな創意」の実現応援
 - ・ 活動エリアの再考
3. 行政との連携充実
 - ・ テーマ横断型の連携の場
 - ・ 行政区、コミュニティの役割分担
 - ・ 地域ともしっかりつながる職員の育成

懇談会資料（花巻市コミュニティアドバイザー役重真喜子氏資料より引用）

～懇談から見えてきた現状・課題、今後の方向について～ 【第1～3回懇談会の主な意見】

①コミュニティ会議をもっと身軽に ～地域の本来の役割を發揮するために～

第1回懇談会から主な意見（現状・課題）	第2回懇談会から主な意見（解決の方向）	第3回懇談会から主な意見（今後の方向性について）
1 組織・事業の硬直化、多忙感 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい発想が出てこない。事業、参加者の固定化 ・肩書による充て職が多く、事業実施に支障、負担の増加 ・役員の担い手不足 ・行事が多く大変（事務局、参加者）。地域の仕事がプロ化しており負担 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の存続、行事の実施そのものが目的化していないか ・事業を減らすなどし、若い人が参加しやすいよう見直しもしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会の統廃合。事業の見直し ・世代間の研修、人材育成に力を入れていく ・役職、役割のマニュアル化。引き受けやすくする ・コミュニティ会議の役員を公募する
2 各種団体関係 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ会議と各種団体の取組みが重複⇔地域の諸団体と連携している ・類似の活動団体がある ・行政からの縦割りの仕事が下りてきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ会議と各種団体が連携することが望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> ・横の連携を強めていく ・各種団体を整理し役を減らす ・地域の諸団体との連携⇔地域により協力体制が違う。
3 インフラ整備関係 <ul style="list-style-type: none"> ・道路舗装などインフラ関係は極めて公共性が高く、公平性の面で課題 ・交付金額が少ないとハードができない地区もあり不公平である ・ハード事業（道路舗装、防犯灯など）の将来的な維持管理が問題 ・公民館修繕整備等は、市の補助金は利用しづらいので交付金を活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住みよい環境づくりのためにはハード事業も必要 ・規模の大きなハード事業は、市へ要望している。 ・豊田市の地域予算制度（地域の要望を市が予算化し実施する制度）のような仕組みが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード事業は予算枠を決めている。地域の要望を素早く解決できる ・地域ごとに課題が違う。コミュニティ会議で行っているハード事業は、行政に要望しても行政が行わない箇所 ・地域づくりは人づくり。ハード事業ではなく、人づくりに力を入れていく

②“創意”の活動をはぐくむ ～意欲とニーズのマッチングのために～

第1回懇談会から主な意見（現状・課題）	第2回懇談会から主な意見（解決の方向）	第3回懇談会から主な意見（今後の方向性について）
1 意欲のある人を上手に活かしていないのでは？ ①参画の仕組み <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ会議や自治会に女性や若者、移住者等は入りづらい ・役職の方だけが集まる部会の雰囲気だと意見をだしづらい ・若い人の地域参加の継続が課題 ②組織の体制 <ul style="list-style-type: none"> ・役員、役職の人だけ集まっても創意活動は生まれにくい ・コミュニティ会議の事業は、地域のニーズを把握しているのか？ ・定額交付金はマンネリ化につながり、創意が出づらい 	①参画の仕組み <ul style="list-style-type: none"> ・WSという人が集まらない。「語りっこ会」と名称を変えた ・意見をだしやすい設定、工夫が必要。それにより自分の願いが叶った。小さな夢が実現できた。それが地域に入っていくきっかけとなる ・よそからきた人を、いかに地域に巻き込んでいくかが大事 ・SNSを利用する ・市民団体等活動支援事業補助金をもっと使いやすく（自己負担、申請手続きなど） 	①参画の仕組み <ul style="list-style-type: none"> ・若者と交流、対話（WS）、顔の見える関係づくり大切 ・若手実行委員会への支援、女性限定WSなど、何でも話せる場づくり ・若い人、よそから来た人、誰もが地域に入りやすい仕組みづくり ②組織の体制 <ul style="list-style-type: none"> ・若手を巻き込むには、若手の企画が大事。それをバックアップ ・地域にはどういう創意が必要か。把握する仕組み ・中間支援組織（NPO等）との連携
2 旧町域の自治やネットワークの再検討 ①コミュニティ会議等 <ul style="list-style-type: none"> ・昭和の大合併で1つの町となったが、平成の大合併後にコミュニティ会議ができ地域が分断された。 ・大迫、石鳥谷、東和では連携した事業がある。 ・交付金を使いきれていない地域もある ②テーマ（創意）型活動 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ地区の枠を超えた子育て支援等の取り組みをしている 	①コミュニティ会議等 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ会議と各団体、旧町域での連携も欠かせない ・コミュニティ会議の連携事業は市で行って欲しい ②テーマ（創意）型活動 <ul style="list-style-type: none"> ・若い人はもっと広域のつながりで動いている 	①コミュニティ会議等 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ会議と各団体、旧町域での連携が必要。 ②テーマ（創意）型活動 <ul style="list-style-type: none"> ・地域をこえた情報共有や居場所づくりも必要 ・創意型活動を旧町エリアに広げて支援する仕組みを検討していく

③行政との連携の充実 ～大きな課題に向かって力を合わせていくためには～

第1回懇談会から主な意見（現状・課題）	第2回懇談会から主な意見（解決の方向）	第3回懇談会から主な意見（今後の方向性について）
1 テーマ横断型の連携 <ul style="list-style-type: none"> ・旧花巻地域のコミュニティ会議は、他のコミュニティ会議と連携が少ない ・コミュニティ会議同士がお互い何をしているかわからない ・連携はコミュニティ会議によりバラツキがあり、社会福祉協議会と連携がとれないところもある 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ横断型ミーティングのようなものがあるとよい。 ・他業種が地域に参入するような運営になると、その地域で乳幼児から高齢者まで賄えるというサービスであったり、地域に力がついてくると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・横のつながりがあればいい。 ・テーマ別の連携が充実すれば、「コミュニティ会議をもっと身軽に」「創意の活動」がよくなると思う ・NPO、企業を含むテーマ横断型連携により、若者との接点も期待できる
2. コミュニティ地区、行政区の役割分担 ①コミュニティ地区 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ地区の役割は高齢者支援、子育て支援、防災である ⇔地域の役割はそれぞれである ・コミュニティ会議の規模により違いがある。 ②行政区 <ul style="list-style-type: none"> ・行政区長の役割は地域によって違う。取りまとめ役⇔連絡員、パイプ役 ・行政区長等の負担増。なり手不足や持ち回りになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して暮らせる地域づくり、普段の幸せが一番大事ではないか ・防災など、個人情報の問題もあり、広域による支援のしくみも必要 ・コミュニティ会議と行政区長の連携は大切 	①コミュニティ地区 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティは生涯学習など大きな視点で補完する役割 ・地域で孤立する人を出さないような取り組みに力を入れる ②行政区 <ul style="list-style-type: none"> ・行政区長の役割の明確化。行政区長の役割の勉強会が必要 ・人口減少により、地域の会長、行政区長の役職をたくさん取れなくなる。そうなった時のために、連携していくことが必要